

議題1. 名鉄西尾・蒲郡線の利用促進策について

質問要旨

- 1) 利用促進をはかる市民団体ができたが、市としては、この団体をどう支援していくのか。
- 2) 西尾・蒲郡線の各駅に福地駅のように駐車場を整備し、パーク&ライド運動を推進すべきではないか。
- 3) 沿線でイベントを開催する時には、駐車場の案内より、各駅からシャトルバスなどを運行して利便性を図るとともに、その利便性をアピールすべきではないか。
- 4) 市としても、市民向けに、西尾・蒲郡線を利用した低廉な観光ツアーを企画実行して、乗客を増やすことを考えるべきではないか。
- 5) 潮干狩りや鳥羽の火祭り、一色の大提灯などには、市として、名古屋などの住民向けに、名古屋から西尾や幡豆などへの貸切りの直通特急を企画運行して、集客を図ることも考えるべきではないか。
- 6) 副市長はじめ市職員は、原則として公共交通機関や自転車もしくはそれらの組み合わせのみで通勤するものとし、市民に「地球にやさしい」通勤の手本を示して、西尾・蒲郡線の乗客を増やすべきではないか。
- 7) 名鉄西尾・蒲郡線の赤字解消のためには、運賃値上げ、通勤・通学定期の割引率の引き下げと企業、県、市などの通勤・通学者への補助の併用もひとつの手段だと思うが検討しないか。
- 8) 近年中に赤字解消ができず、かつ、乗客が上向きにならないときはどうするのか。
- 9) 市が蒲郡市や県と共に、第3セクターの会社を設立し、名鉄から施設等を買取り、名鉄の負担を軽くして、名鉄に運行を続けさせることも検討すべきではないか。
- 10) 市は、養老鉄道、伊賀鉄道、富山市ポートラムなどの例を研究しているか。していなければ、早急に検討して、名鉄の西尾・蒲郡線の廃止のときに備えるべきではないか。

議題2. 消防団のこれからのあり方について

質問要旨

- 1) 利用促進をはかる市民団体ができたが、市としては、この団体をどう支援していくのか。
- 2) 活動地域は西尾市全域にしないのか。
- 3) 町外勤務者の多い分団にあっては、日中、町中にいる女性を団員にすることを考えるべきではないか。
- 4) 常備消防のない佐久島では、消防団は必要と思うが、女性を中心にするのを考えるべきではないか。
- 5) 消防団には、災害時要援護者のリストづくりや避難誘導に働いてもらうことを考えないか。
- 6) 報酬・費用弁償は本人に支給し、分団預かりではない形にするべきではないのか。
- 7) 市の内部機関である消防団に対して、交付金を交付するのは妥当ではないと思うがどうか。
- 8) 消防団については、合併後、そのあり方を検討するとされているが、今までにどのように検討されたのか。
- 9) 旧3町の消防費は、常備消防の消防署員79人と消防団合せて約8億円となり、旧西尾地区108人の9億円と比べ、多額と思うがどうか。
- 10) 現在、進行中の行財政改革検討委員会では、消防団のあり方についても検討課題とするべきではないのか。
- 11) 年間1億円もの経費を要する消防団にあっては、人数や経費を削減して、その分、正規消防職員を増やし、地域での雇用の機会を増やすことを考えるべきではないのか。